



ライブ配信のため画面を注視する別院職員

コロナ禍での 法要の在り方



第57号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号

Tel: 078-341-5949

— 宗祖降誕会 —

親鸞聖人は、二七三(承安三年、五月二十一日に、京都の日野の里でお生まれになられたことから、ご本山、本願寺では「宗祖降誕会」が修行されている。法要の始まりは、一八七五(明治七年)年からとなる。

また、この時期に全国の別院や多くの寺院においても、親鸞聖人のご誕生をお祝いし、降誕会の法要や行事が行われているが、本願寺神戸別院では、毎年五月の第四日曜日に修行されている。例年は、お茶席が設けられ、参拝者の皆様にお抹茶の接待が行なわれているが、コロナ禍のため昨年引き続き本年も中止となった。

ご法話については、緊急事態宣言下であったが、「この様な状況だ

宗祖降誕会：大西宝雲師



永代経法要：佐々木大観師

からこそ、せめて一席でもお聴聞のご縁を」との要望から、本願寺派布教使の大西宝雲師(兵庫県粟粟市)に依頼したところ、快くお引き受けいただいた。

この度も、別院僧侶のみでお勤めをする法要となったが、参拝者もあつたため受付では検温・手指消毒のお願、参拝席の間隔を開けて換気を行うなど感染症対策を徹底した。

また、新しい取り組みとして、参拝に來られない方のために、法要の様子が視聴できるライブ配信も行われた。

この配信は、全て別院職員によってカメラの配置やマイクの設置が行われ、神戸別院のYouTubeチャンネルにて配信された。

本来は、賑々しくお勤めすべき法要ではあるが、規模を縮小せざるをえないことは残念である。混迷を深めるこの時代だからこそ、底知れぬ妄想の闇に迷い、虚偽に執着して空しく生きる私たちに對して、親鸞聖人が顕かにされた真実の教え『南無阿弥陀仏』

のみ教えの意義を、改めてお聞かせていただいたご法要であった。

— 永代経法要 —

六月二十七日、本願寺神戸別院の永代経法要が勤められた。コロナ禍ではあつたが、約三十名の門信徒の参拝となった。

莊嚴な雅楽の調べで始まり『仏説阿弥陀經』を参拝者と共に勤められた。

このたびの永代経法要においても、このコロナ禍でお参りする事が困難になっている方の為に、YouTubeでのライブ配信も行われ、自宅にいながら本願寺神戸別院の永代経法要のご縁にあつていただいた。

お勤め後、本願寺派布教使の佐々木大観師(兵庫県粟粟市)にご法話のお取りつぎをいただいた。

永代経法要とは

「永代経法要」とは、「先代や先々代、ご先祖の方々から、現在の私たちまで伝わってきたお経(お念仏のみ教え)が、子や孫、その先の世代まで、永代にわたってお勤まりになるようにという願いを込めてお勤めする法要」のことである。

「永代供養」と同じ意味として捉えられているが、供養とは、仏・菩薩様に香華、燈明、飲食などを、真心を込めてお供えすることである。世間では、概ね死者を弔うことと思われがちになっているため「永代供養」と混同されている。

ご門主より「浄土真宗のみ教え」が示されました — 本願寺・「春の法要」のご親教にて —

毎年、京都・本願寺にて、四月に修行される「春の法要」において大谷光淳ご門主より「浄土真宗のみ教え」が示されたご親教が述べられた。

ご親教とは、浄土真宗本願寺派の門信徒に向けたご門主によるご法話にあたる。

この「浄土真宗のみ教え」を通して、親鸞聖人の生き方に学び、次世代の方々にもみ教えがわかりやすく広く伝わるようにとのお心が窺える内容となっている。

また、二〇一八（平成三十）年の秋の法要（全国門徒総追悼法要）のご親教において述べられた「私たちのちかい」についても引き続き唱和していただきたいとも述べられた。

※ご親教の内容については、本願寺HPを、ご利用できない場合は、神戸別院まで。

浄土真宗のみ教え

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といたいて

この愚身をまかす このまま

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しづつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく

穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず

しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく

人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき

日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

「モダン寺子ども会」
—阿弥陀さまのそばで楽しく—

本願寺神戸別院の子ども会、「モダン寺土曜子ども会」は、毎月一回(休会月あり)別院内にて開催されている。参加者は、乳幼児から小学生まで幅広い年齢の子どもたちとその保護者が参加している。

子ども会の基本的な内容は、最初に阿弥陀さまへのお勤めからはじまり、その月ごとにクラフトやゲームなどを行い楽しい時間を過ごしている。

このところは、昨年からのコロナ禍で、延期や中止となっていたが、緊急事態宣言が解除された四月十八日によりやく再開となった。

宣言中は、外へ行きにくかった状況であったため「子どもたちに気分転換をして貰えれば」との思いから感染症予防対策を万全にしたうえで、



紙芝居に興味深々の子どもたち

「子ども会はなまつり」が開催された。「はなまつり」とは、仏教を開いたお釈迦様の誕生を祝う行事である。そのため、当日は、色紙を束ねて花を作り、お釈迦さまの像を安置する御堂に飾り付けが行われた。その後、別院僧侶による紙芝居が披露された。

紙芝居担当者からは、今の時代はインターネットなどで手軽に動画が観られる環境であるため、子どもたちの反応がどうかとの心配もあったが、紙芝居が珍しいと感じる子どもが多く、時に物語に合の手を入れるなど反響は上々だったとの感想が聞かれた。

再開と思つた矢先に:

ようやく再開と思つた矢先に、四月下旬からの緊急事態宣言となり、二ヶ月間中止となったが、七月に解除されたため七月十一日に再開された。

七月は、暑さが本格化することから、水を張った小型プールを利用した遊びが行われた。水の中に沈めた絵を目掛けてコインを投げ入れるというコイン落としゲーム。

コインは、水中で予想外の沈み方をするため、狙いが外れる子もいれば、運よく成功する子もいて何度も挑戦しては一喜一憂する姿を見せ楽しいひと時を過ごした。

【子ども会の募集については、

四面をご参照ください。】

兵庫・岡山テレホン法話集

「無条件のお救い」

岡山県 宝福寺

正親智隆

私は小学生の時、備中川のトビウオと言われるくらいに水泳が得意だったのですが、ある時、小学校で着衣水泳の授業がありました。

着衣水泳と言うのは、川や海で流されてしまった時にどうすれば良いのかを消防士さんが教えてくれるものです。授業が始まり、消防士さんに言われ服を着たまま泳いでみますと普段は楽々泳げていたはずのプールを最後まで泳ぎ切ることができませんでした。

息を切らせ足をつけて立っていません。「本当の川や海では足がつかません。流れもあるからもし川や海で流された時は、自分がどれだけ泳ぎが得意だと思つていても、向こう岸が見えていても泳いではいけませんよ。泳いだら溺れるのが早くなつてしま

いますからね。泳ごうと思わずできるだけ長く浮いて助けを待っているのですよ」と言われるものだから、大きな海の中一人で泳ぎ続ける怖さを感じたことを強く覚えてます。

もし川や海で流された時、自分の力で岸まで泳ぎきることのできない私たちはひたすら浮き続けて助けを待つしかありません。

しかし、今、迷いの世界に生きる私は、仏になる因も縁も何一つ持ち合わせておりません。浮き続けることさえできないのです。

それどころか「仏になりたいか? 悟りを開きたいか?」と問われても、まるっきりそのような気持ち湧いてきません。自分が迷いの中にいることにさえ気づいていないのです。迷いの海に流されているどころでなく、既に溺れてしまっているのです。それにも関わらず、着衣水泳を実際にするまで「自分はトビウオだ。どこまでも泳いでいけるに違いない」と驕っていたのです。自分の力で迷いの世界を何とかしてやろうとさえ思っている。それが仏の救いから逃げ回っていた私の姿なのでした。

だからこそ阿弥陀様のお救いは私の側にも条件をつけません。こちらの一切のほからいを必要としない、「そのままのあなたを必ず救う、必ず浄土まで連れて帰る」と無条件のお救いを誓ってください、私が求める前から至り届き、はたらき続けてくださっているのです。

☎〇七八・三四一・八五四六番にて、兵庫教区青年僧侶の会で作られた三分程度のテレホン法話が配信されています。ご視聴ください。(電話料金はご負担ください。)

※過去に配信されたご法話を掲載いたしました



ご法事のご依頼について

当院に、ご法事をご依頼される場合は、ご希望の日時を決めていただき**2ヶ月から3ヶ月前まで**にご連絡をしていただければ、ご希望の日時にできるだけ沿うことができます。また、神戸別院を会場としてご法事を営むこともできますので、是非ともご活用いただければ幸いです。

(別院のご門徒の場合は、法事における会場使用冥加金は不要となります)

ご法事のご依頼の際は、下記のことをお伝えいただければ円滑にご法事の申込ができますのでご参考ください。なお、年忌の確認については、当院HPの「命日スケジュール」にて確認できますのでご活用ください。

お伝えいただく事柄

- ① 施主様のお名前
- ② ご希望の日時と法事の内容
- ③ 法事の場所（自宅・別院・その他会館）
- ④ 故人の名前と法名
※法名がわからない場合は、お尋ねください。

年忌一覧

- 1周忌 …… 亡くなられて1年目のおつとめ
 3回忌 …… 亡くなられて2年目のおつとめ
 7回忌 …… 亡くなられて6年目のおつとめ
 13回忌 …… 亡くなられて12年目のおつとめ
 17回忌 …… 亡くなられて16年目のおつとめ
- 以後、25回忌、33回忌、50回忌と続き、それ以後は50年ごとにお勤めします。
 ※25回忌を、23回忌と27回忌に分けてお勤めすることもあります。

モダン寺土曜子ども会 会員募集



月に一度、お寺に参ろう、学ぼう、遊ぼう!

子ども会のスケジュール

- 9:30 受付
出席簿にシールを貼ります
- 10:00 お仏参(仏教讃歌)
阿弥陀さまにお参りします
- 10:20 おはなし
- 10:30 レクリエーション
工作・楽しいゲームなど
- 11:50 おわりのおうた
恩徳讃を歌います
- 12:00 解散

- 開催日：都度、お便りにてお知らせいたします
 対象年齢：～小学生
 ・幼児の場合は、できるだけ保護者同伴にてお願いします
 ・中学生もご参加いただけます

参加費：無料
 (遠足など都度で参加費をいただきます。)

- 特別行事： 4月 はなまつり
 5月 遠足
 8月 モダン寺サマースクール
 10月 遠足
 3月 修了式

(※1月はお休み)

お問合せ先:本願寺神戸別院 モダン寺土曜子ども会担当まで ☎078-341-5949